

地域医療戦略としての放射線治療

理事長 石井 暎禧

私が若い婦人科医だった頃、難度の高い手術とは、子宮頸癌の手術であり(事実、きわめて出血量の多い、凄惨な手術となることが多かった)、これが出来ることが、婦人科医として一人前を意味していた。しかし、当時も、治療成績は手術と放射線治療では、差がないと言われていた。手術をたくさんこなす事は、医者にとって手術手技の上達のためにはなるだろうが、患者にとって負担の多い手術が第一選択だろうか、疑問であった。しかし、私の周辺では、放射線治療はもっぱら末期癌に対してのみ行われていた。この経験は私が大学医局に見切りをつけた原因の一部でもある。

我が国の癌治療は手術に偏りすぎていると言われてきた。化学療法や放射線療法は、補助療法として併用されることはあっても、主療法として選択される機会が少ない状態は現在も続いている。同等の治療効果がある場合では、欧米では放射線治療が手術以上に選択されていると聞く。我が国の場合、放射線は原爆の被爆国体験からか、治療効果ではなく被爆の恐怖が先に立つという感覚が一般にある。そして放射線治療の選択が少ないことは、放射線治療医が少ない状況を生み、治療医が少ないことが、放射線治療の推進を妨げるという悪循環を生んできた。

現在は、癌治療は手術・放射線・化学療法をもっとも効果的に組み合わせて、集学的な治療をおこなうことが重要であるとされている。医者の興味・修練のためでなく、患者の生活・QOLを基準に、どのような医療が最適かを考え、患者に選択してもらわなければならない。一生のうち二人に一人は、癌にかかるのだから、地域病院にとって、放射線治療を含む癌治療の体制をどのように作るかは癌治療の質を考える上での戦略的課題であると言てよい。

地域の中核病院を目指しているわれわれは、この度、新川崎幸病院内で、新緑脳神経外科の経験を土台に、本格的な放射線治療を開始するつもりである。



診療科・職種横断的ながん医療提供体制を推進

第1回カンサーボードを開催 / 狭山病院

狭山病院 副院長 堤 謙二

平成20年4月に狭山病院は埼玉県がん診療指定病院に指定されました。がん診療指定病院とは、地域の実情に応じて国が指定するがん診療連携拠点病院の機能を代替・補完し、県民に高度ながん医療を提供する病院とされ、その内容は多岐にわたります。整備要件として診療体制が定められ、①集学的治療の提供体制及び標準的治療等の提供の中にはガイドラインに準ずる標準的治療の提供や、クリティカルパスの整備、カンサーボードの設置・開催すること、とあります。

他には②化学療法の提供体制 ③緩和ケアの提供体制④ 病病連携・病診連携の協力体制 ⑤セカンドオピニオンの提示体制があります。さらに診療従事者、医療施設、研修の実施体制、情報提供体制、院内がん登録などについて細かな規定が設けられ、平成22年4月に埼玉県がん診療指定病院指定要綱として施行されています。当院ではほとんどの要件を満たしてしまし

たが、カンサーボードの設置はされていませんでした。おりしもここ1-2年、国立がんセンター中央病院や癌研有明病院などの中枢病院とがん治療への貢献という社会的使命に基づく製薬会社との協力体制の下、がん治療におけるチーム医療の重要性が認識され、その啓蒙・普及のための講習会も新たに始まってきました。当院からも医師、看護師、薬剤師がチームとして、すでに講習会やワークショップに積極的に参加しています。その結果チーム医療の重要性とその充実ががん診療にも非常に重要であることが病院全体でも認識され、結果としてカンサーボードの設置に至りました。

カンサーボードとはがん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるように、診療科・職種間の垣根を越え、医師や看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど医療スタッフが、一同に介して患者の治療について話し合う場とされています。また地域医療連携が実施されている場合、他医療機関からの参加も積極的に受け入れることにより、地域医療機能の充実にも役立つとされています。この定義の中でのkey wordは診療科・職種間の垣根を越えた、にあると思います。がん患者の抱える

治療はもとより、治療に影響を及ぼす社会的・経済的な問題、家族の問題などを診療科・職種間の垣根を越えた意見交換・共有・検討・確認等はまさしくチーム医療といえます。

当院では本年夏頃から準備を始め、先頃“**The 1st meeting of CANCER BOARD SAYAMA**”と銘打って本年10月に開催しました。パネルディスカッション形式で行われ、

多くの職員の参加のもと、1時間を超える活発な議論が交わされ、狭山病院職員のがん診療に対する思いが深く感じられました。また当院では併せてシリーズ形式の『狭山病院におけるがん診療アップデート』と題した勉強会も月1回開催しています。我々はこのような活動を通して埼玉県西部地区における埼玉県がん診療指定病院としての使命を果たしていきたいと考えています。



堤 狭山病院 副院長

“The 1st meeting of CANCER BOARD SAYAMA”



カンサーボードカンファレンスの模様



川崎幸病院 川崎市消防局から感謝状授与

9月9日、川崎幸病院(203床)が救急行政の円滑な推進に寄与したとして川崎市消防局より4名来院され感謝状を授与されました。

* * *

救急搬送患者の収容困難が全国的に社会問題化していますが、川崎市における救急医療の実態はさらに深刻です。2007年から2009年における東京都及び18政令指定都市(当時)における救急医療の実態調査では、救急搬送(重症以上傷病者)に占める現場滞在時間30分以上事案の割合が川崎市においては連続して16%を超え、対象都市の中でも突出して高い数値(都及び政令指定都市全体の平均は約7%)となっています。

こうした中、川崎幸病院では救急医療を地域医療の要として「断らない救急」を推進、救急医療体制の充実と救急車受入の努力を続けており、2009年度救急受入件数は5,195件(前年比6.0%増、前々年比33.8%増)と、川崎市内医療機関別救急受入件数では川崎市立川崎

病院(733床)に次ぐ数字となっています。救急受入件数の伸びは2010年に入ってからも続いており、猛暑による熱中症等患者の搬送も加わった7月には560件を記録(前年369件)、今後、寒さが本格化するに伴っていっそうの増加が見込まれます。

今回の感謝状授与は川崎幸病院の救急医療への積極的な取り組みと実績が表されたものですが、同院の後藤救急部長は「今回の授与は大変嬉しく、名誉あることだが、新病院への移転開設の日に向けて、さらに地域の救急医療に貢献していきたい」と語っています。

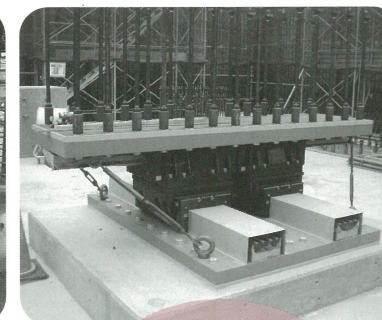


左から
川崎市消防局
富岡警防部長
石井理事長
小林統括事務部長

川崎幸病院新築移転計画・工事進捗状況
(2010年10月1日現在)

免震装置の設置工事(建物基礎と建物本体の間)が進行中です。

免震装置は ① 積層ゴムアイソレーター
② 鉛プラグ入り積層ゴムアイソレーター
③ 転がり支承
④ オイルダンパー で構成されます。

積層ゴム
アイソレーター

転がり支承



工事現場の全景

魅惑の山岳マラソン 105km 素人集団完走記

狭山病院 心臓血管外科 垣 伸明

世間のランニングブームのなか、近頃は登山とのいいとこ取りの、トレイルランニング(山岳マラソン)というスポーツが密かに人気を集めている。獣のように野山を駆け巡るイメージであるが、実際は年齢層も幅広く、大自然を楽しみながら、各々の力量に合わせさまざまなレベル大会が開催されている。今回出場を決めたのは、「おんたけウルトラトレイル100km」という大会で、国内屈指の過酷さが売りで、距離もさることながら、深夜にスタートし、20時間以内に帰り着けというものである。

私(垣)を始め、メンバーはもともと長距離を走ることには、かなりの抵抗感がある面々で、こんな浮世離れたものに挑戦することになったのは、「世の中には想像を超えた世界がある」と知ってしまったことで、まったくの興味本位で、軽々しくもマラソン部を結成することになった(黒木先生は半強制?)。

10代の頃、アイドル歌手と真剣に結婚したいと考えたことがあるが、それ以来の愚考であろう、先立つ体は、菅原先生を除いては、どれも世間一般の運動不足と中年体型であった。100km攻略までの時間は8ヵ月しかなく、おのずと練習の方向性は、まずは体を軽くするダイエットから始まり、少しでも走れる距離を伸ばしていくことになった。しかし長年運動不足にさらされた体に無理は禁物で、一日走った後は数日間の休息をとり、故障だけはしないよう心がけた。これは筋肉に回復期間を与えることにより、効率よく走力アップが得られる理論的な方法でもある。一方で部員の気持ちが断ち切れにならないように、部活動は必ず月に一回、病院に隣接する稲荷山公園で、1時間のグルグル走(1周1.7km標高差40m)を行った。また各自がマイペースで地道な努力を続けた結果、部員全体のレベルは、大会まで約3ヶ月を残した段階で、やっと市民ランナーの域(10kmを走れる)に到達した。以前の自分からすると、これでもまったく想像できない進歩であるが、目標とするところは遙か先で、残された時間でどれだけ長い距離を走れようとするかが頑張りどころとなった。大会に向けて私個人は稲荷山公園内40km走を最低条件にしていたが、やっと2週間前にギリギリで達成できた。

★石心会狭山病院 マラソン部

心臓血管外科 垣 伸明 (46歳、スポーツ歴:野球)
嶋田 洋直 (32歳、スポーツ歴:空手)
循環器内科 黒木 崇文 (35歳、スポーツ歴:野球)
菅原 裕 (29歳、趣味としてジョギング)

他の部員も20~30km走はどうかできるレベルになっていた(フルマラソンでは20km走で達成可能)。

平成22年7月18日、大会を待っていたかのように梅雨が明け、暑い戦いの日を迎えたコースは、数日前の豪雨で土砂崩れがあり、急遽100kmから105kmに延長された。累積標高差は3000m以上、自分の身を守る装備や食料を背負い、闇の御岳山麓に入っていくものである。出場選手は総勢700名、フルマラソンから

ステップアップしてくる場合やウルトラマラソンの常連が中心で、猛者の集いでもある。

1割弱が女子であることにも驚かされた。我々マラソン部4人は、場違いなことは十分に理解していたが、スタート地点に立っていることも事実で、夢が悪夢か不思議な感覚に包まれていた。

0時の号砲とともにヘッドライトを頼りに、列車に寄せられた囚人のように流れについていった。我々のレースは他人との競争ではない、自分自身を少しでも遠くに運ぶ戦略が必要で、ゴールまでの残りの距離を、意地とプライドをかけ乗り切るものである。暗闇を5時間ほど必死に走っていると、山が明るさを取り戻し、自分が雲海の上にいることに気づき驚いた。距離が

50kmを超えてくると、あちこちが痛みだし、エネルギーも底を突く、日差しも強くなり、サバイバルの様相を呈してくる。走れない言い訳がいくらでも噴出し、後悔するようになる。しかし眠っていた冒険心が呼び覚まされると、こんな非日常の世界に挑戦できることが大きな感謝に変わってくる。終盤ともなると、夢の世界がいずれ終わってしまうのかと思うと、一歩一歩を大切に前に進むようになった(あくまでも垣個人の感想)。そして制限時間というプレッシャーにも潰されそうになりながら、持てる力の全て使い果たし、素人集団全員がゴールへとたどり着いた。約3割にあたる200名が脱落した壮絶な戦いは終わった。

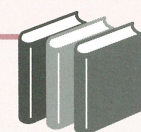
部員一同、大会を通じてのこの8ヵ月間は、素人でしか味わえない価値ある体験をさせて頂きました。来年も出場を考えていますが、一緒にやってみたい方は一声かけてください、初心者であればあるほどドラマがあります。

ナイトステージを走る
嶋田 洋直
「本当に辛い事を
乗り越えると
くせになります」

菅原 裕
ゴールにて
「前日当直は
もうしません」

ゴールする
垣 伸明
「超しびれた〜あ」

ゴール直後の
黒木 崇文
「夢と浪漫!!」



読書のすすめ

川崎幸病院 中原分院院長 林 哲夫
川崎幸病院 泌尿器科部長

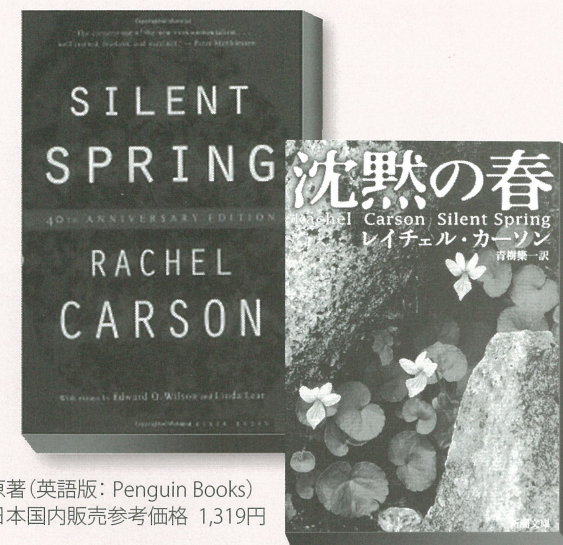
『SILENT SPRING』 沈黙の春 Rachel Carson 著

この本の著者Rachel Carsonはアメリカ人女性で、発生遺伝学・海洋生物学を専攻し後に広い知識と洞察力に富んだ生態学者となった。この書は1962年とかなり昔に発行されているが現代でも重要な問題として存在する環境問題(公害、環境汚染、環境破壊、農業、薬害等)に早くから警鐘を鳴らしていた秀逸な書物の一つである。彼女は生物学者であるとともにエッセイストとしての評価も高く、彼女の書く文章は生態学の書物として優れているのみならず、洗練されたユーモアのなかに真実への強い志向を秘め、高い想像力のみが生み出しうる簡潔な表現は適切さと優雅さと意外性とを同時に兼ね備えており読者を強くひきつけてやまない魅力を持っている。

*

私がこの書に最初に出会ったのは最初の大学入試の時、英語の英文和訳の問題にこの書の第一章(明日のための寓話)が問題として出た。科学論文とは思えないこの寓話の魅力にとりつかれ、受験が終わった春休みに原著を購入し辞書を片手に全文を読んだ。その後続けて他の著作も読み、もちろん環境問題への関心も生物学的興味も深まることとなったが、それ以上にそれまでの私の博物学的な興味は徐々にもっとはつきりとした焦点へと集中していった。最初の大学を卒業するころには私の関心は医学へと結実していった。その後、私は医学部に入学し二度目の大学生活を送る事になった。

私自身もびっくりしたことだが、後に私はこの書ともう一度出合うことになった。医学部を卒業しいくつかの関連病院で研修の後、一時研究生活を送った。その集大成として博士論文の審査があるわけだが、その際の語学試験の英語の問題にこの書の別の章(農業と環境汚染に関する章)が問題に出ていた。



原著(英語版: Penguin Books)
日本国内販売参考価格 1,319円

日本語版(新潮文庫) 660円

どこかで読んだことのある文章をみてびっくりすると共に懐かしさを覚えた。当然、試験は楽勝だったが、その事実は今まで誰にも話していない。

最後に、われわれの日ごろ行っている医療にも参考になる彼女の好きな言葉と彼女自身の言葉を紹介したいと思う。

「私は、自分の利益ばかり考えている人類に対して希望を寄せていない。人間は、ずるがしこくたちまわるばかりだ。他人に対しても自然に対しても、ねじ伏せて自分の言いなりにしようとする。私たちはもう少し愛情を持ち、疑心暗鬼や暴君の心を捨て去れば、人類も生きながらえる希望があるのに。」(E.B.White)

「毒性のある、しかも生物体にたいしてきわめて強力な働きかけをする物質を、われわれはその潜在的毒性に無知な人たちの手に見境もなくゆだねてしまっている。」(Rachel Carson)

われわれも日ごろから、自分の周囲の環境や人をはじめてとした生物に愛情を持ち疑心暗鬼や暴君の心を捨て去るとともに、医療が本質的に持っている危険性に常に慄きながら医療に従事したいものである。

*

*レイチェル・ルイズ・カーソン

(Rachel Louise Carson, 1907年5月27日 - 1964年4月14日)
アメリカ合衆国のペンシルベニア州に生まれる。
『沈黙の春』の執筆中に癌宣告を受け、病と戦いながらの執筆活動であったが、1964年4月14日に死去。

趣味
探訪

「着物にハマる喜び」

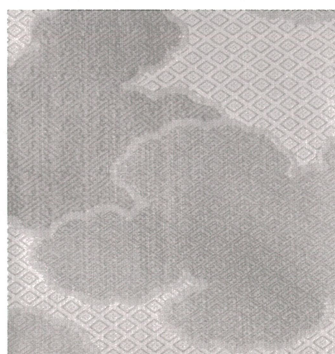
～吉永小百合、というわけにはいきませんが～

川崎幸病院 大動脈センター 科長 田中 亜由美

私が着物に興味を持ったのは川崎幸病院に就職を決めるちょうど3カ月前のことですから、かれこれ6年になります。私には元々、茶道や華道の趣味があったわけでも、家族がその道の芸事をたしなんでいたわけでもありません。いわば着物とは全く無縁な環境で育ち、暮らしていたのですが、川崎幸病院への入職を控えていた当時、なぜか突然、「着物が自分で着られるようになりたい!」と思い立ち、思い立ったが吉日とばかりにおけいこに通い始めたのです。



この「着物」という世界に入ったのは、何よりも自分で着ることを楽しみたいというのが動機なのですが、実はこの雅(みやび)な世界、私のような大雑把な性格にとって少々面倒な決まり事がたくさんあることを程なくして知りました。例えば「着物の格付け」です。洋服にスーツやドレス、Gパンがあるように、着物には着ていく場所や行事によって、どんなにそれが高額な着物だとしても、着てはいけない場合があります。一般の方の目には、違和感を感じさせない「着物」に違いないのですが、この決め事が分かっている人のチェックは鋭く、



「結婚式にGパンで出席している」とささやかれてしまうことにもなりかねません。

また、着物の柄や絵付けなどは当然、着付けの時期に深く関係します。例えば、「桜」の柄でも、花だけなら良いのですが、そこに枝まで描かれていれば、実際にこれを着るのは桜が咲く時期だけに限定されるという具合です。最近、若い人達の間では浴衣などが洋装に近い着崩した形になりつつあり、着物にしてもずいぶん個性的な着方がみられるようになってきましたが、私としてはやはり、伝統に則ったこの世界のしきたりに従いながら、その中で自分に似合う着物を選び風情を楽しむこと、これが着物の喜びと思っています。

子どもが生まれる前は、正月は欠かさず着物で川崎大師へ参拝、また、主人と食事に出かける時もよく着物で出かけていました。さすがに、子供が生まれてからは普段から着るというより、イベントで着るに変わってきてしまいましたが、それでも、機会を見つけては着物を楽しんでいます。着る機会は減っても衰えることを知らないのは購買意欲です。告白してしまうと、この不況のさなかでもやっぱり、素敵な着物を見つけるとついつい手が出てしまうのです。日常生活においては、小銭にも目くら立ててうるさい私が、こと着物の事になると、大金にも全くの無頓着になってしまいます。これも着物の持つ魔力でしょうか。着物の展示会に好きな作家が出品しているのを見つけると必ず出かけ、展示場でいろいろな反物をあてがいながら、自分に合う雰囲気や色を楽しみ、頭の中で、これをいつ着ようか、などと考え出すと楽しくて時間を忘れてしまいます。もちろん、洋服に比べると着物はとても高額ですが、こうした妄想がはじまると



藍染めの静と華を堪能

将来は娘といっしょに

だんだん金銭感覚が麻痺してくるのも事実で、良い着物が30万円位で手に入るなら「安い!じゃあ帯も!」なんて大胆になってしまふこともしばしばです。この有様に、主人からは出産後に「着物禁止令」なるものが

出たくらいです。展示場では、着物屋さんもちろんで商売ですから、私のような買う気にハヤる人間を決して見逃しません。いろいろな策を弄して付属のものを買わせようとアプローチが始まります。この、ある意味しつこい位の、良く言えば地道な交渉には、先方に打ち勝つだけの強い精神力と、笑みをたたえつつも、しっかりと断る話術が必要です。ですから、実際に購入の決断をするときは、吟味に吟味を、厳選に厳選を重ねたうえで、ということになります。着物の柄やデザインに関しては、京・加賀友禅もよいのですが、私の場合、粹にカッコよく普段着のように着こなせる大島紬や江戸小紋が大好

きです。着物1本に帯3本という言葉があります。洋服には流行があり、今年買った服が来年着られないということがしばしばあるものですが、着物は帯や小物、半襟などを替えたりすれば時代を超えて長く楽しむことができます。こうしたことを考えると着物は最初の投資こそ高額ですが長い眼で見ると意外と経済的なのです。

私はこれからもずっと着物を楽しんでいきたいと思っています。TVのCMに着物姿で美しく登場する吉永小百合さんには程遠いのですが、素敵な着物が自然に似合う年の重ね方をしていきたいと思います。そして、まだまだずっと先の話になりますが、幼い我が家の娘と共に、いずれは母娘と一緒に着物を楽しみたいと願っています。



Music Salon ミュージックサロン

9月18日に開催された狭山病院・さやま総合クリニック「第30回ヘルシーコンサート」の様をお届けします。

伊藤元子氏によるハープ独奏

耳親しんだ名曲たちがハープの神秘的な響きに奏でられ、
会場のさやま総合クリニック3階ピアノホールは深い時の流れに包まれました。



- ◇ 出 演 伊藤 元子 (ハープ)
◇ 曲 目 バッハ: アヴェ マリア、イギリス民謡: グリーンスリーブス
チャイコフスキー: 「くるみ割り人形」よりマーチ、トレパーク (ロシアン・ダンス) 他

◆ 伊藤元子氏プロフィール

国立音楽大学器楽科ハープ専攻卒業。同大学院修士課程修了。ヨセフ・モルナール氏に師事。古楽器にも興味を持ち、古楽演奏およびCD録音にも参加する。M.Cジャメ女史、フィア・ベルクハウト女史に指導を受ける。近江楽堂 (東京オペラシティ内) にてハープデュオ開催。現在、プロオーケストラ、室内楽、ソロと幅広く活躍中。また、ミュージカル、CM、TV録音など出演多数。絵本と音楽で奏でる《シャン ドウ ラ フルール》を主宰。鹿嶋清真学園中等部・高等学校でオーケストラの指導。銀座十字屋ハープサロン講師。

☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師 (現 副理事長兼狭山地区統括院長) が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニスト ユンディ・リ が練習用に愛用したものです。



石心会グループの活動 (2010年7月～9月)

川崎幸病院

- 7月14日 平成22年度 第2回復職支援セミナー開催
- 7月16日 川崎市救急隊との意見交換会 研修室 参加者 50名
- 7月24日 納涼祭開催 南河原公園 川崎幸クリニック・中原分院と共催
- 8月 8日 川崎幸病院中原分院「医療祭」応援
- 8月 1日 平成22年度 医療法第25条に基づく立ち入り検査 (医療監視)
- 9月 8日 平成22年度 第3回復職支援セミナー開催
- 9月21日 医療安全対策委員会主催セミナー開催 ソリッドスクエア 地下
- 救急隊勉強会
7月 7日 『下部消化管急性腹症について』 講師: 外科医長 / 河原 祐一
9月24日 『循環器疾患の搬送患者の症例報告と胸痛について』 講師: 循環器内科 / 高橋 英雄
- 川崎市総合防災訓練参加
8月29日 全体訓練参加
9月 4日 院内総合訓練 (主にトリアージ訓練)
- 9月10日 『病院との連携を考える会』 味の素会館 発起人: 医療相談科 / 浦山科長
参加者 近隣病院、在宅事業者、包括支援センターのケアマネージャー、MSW等で約100名

川崎幸病院 中原分院

- うるおいコンサート
7月17日 第19回うるおいコンサート ハーモニカ合奏 (いていシルバーハーモニカバンド)
8月28日 第20回うるおいコンサート 管楽器合奏 (おかか Trio)
9月25日 第21回うるおいコンサート 合唱 (デーローズ)
- 公開講座
7月31日 『メタボより怖い国民病、慢性腎臓病をご存知ですか?』 参加者 65名
講師: 川崎幸病院腎臓内科 部長 / 中島 豊
8月21日 『おいしく食べて元気な毎日を～介護予防のための食生活～』 参加者 15名
講師: 川崎幸病院中原分院栄養科 管理栄養士 / 田内 直恵
9月11日 『パパとママの子供救急箱～小児外来でよくある質問～』 参加者 22名
講師: 川崎幸病院 EMT科 救急救命士 / 蒲池 淳一
- 院内勉強会
7月27日・29日 『貧血治療の重要性』 講師: 協和発酵キリン株式会社
8月31日、9月7日 『成人院内肺炎診療ガイドラインについて』 講師: 明治製菓株式会社
9月28日 『喫煙の健康に及ぼす様々な影響』 講師: ファイザー株式会社

狭山病院

- 7月 7日 参議院議員選挙不在者投票 40人の方が投票されました
- 7月17日 看護師復職支援セミナー (狭山病院) 参加者 3名
- 7月24日 納涼祭
- 8月27日 看護師復職支援セミナー (狭山病院) 参加者 2名
- 9月 1日 栄養サポートチーム加算届出
- 9月 1日 救急搬送患者地域連携紹介加算届出
- 9月21日 看護師復職支援セミナー (狭山病院) 参加者 1名
- 院内勉強会
7月 8日 『薬剤 (抗癌剤) 勉強会』 参加者 19名
7月16日 『感染対策の基礎』 参加者 41名
7月20日 『がん診療の進歩 (3回目) ☆大腸癌診療update』 参加者 79名
8月 6日 『医療安全』 参加者 101名
8月12日・27日 『MRI 安全講習会』 参加者 85名
9月24日 『医の倫理』 参加者 111名
9月28日 『HIV・エイズの基礎知識』 参加者 74名
9月29日 『第1回 診療報酬勉強会』 参加者 44名
- 地域医療連携・公開カンファレンス
7月16日 『摂食・嚥下障害の考え方と援助の実践』 参加者 145名
講師: 茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科 助教 / 白坂 誉子
9月14日 『チーム医療におけるがん看護専門看護師の役割』
講師: 虎の門病院 看護部 癌認定看護師 / 長谷川 久巳
『がん診療における専門薬剤師の役割』
講師: 虎の門病院 薬剤部 癌認定薬剤師 / 長谷部 忍 参加者 117名



石心会グループの活動（2010年7月～9月）

川崎幸クリニック	● 気功教室 講師：臨床心理士 / 稲富 正治 7月29日 参加5名 8月27日 参加6名 9月16日 参加5名 ● 心理相談室公開講座 7月15日 『心と身体の健康について』 講師：臨床心理士 / 稲富 正治 参加 12名 ● 8月 7日 糖尿病講座 参加7名 ● 9月16日 『人付き合いのヒント 心理テストで自分を振り返ろう』 講師：臨床心理士 / 成田 亜紀 参加 5名 ● 院内研究発表会 9月25日 講演『内視鏡の機種間による、性能差についての比較検討と、実際の内視鏡検査』 講師：内科医師・内視鏡室長 / 設楽 雅人 参加 57名
さやま総合クリニック	● 糖尿病教室 7月 1日 『賢い間食・フルーツカットの実演』 講師：管理栄養士 / 安達 順子 調理師 / 赤岩 秀治 参加者 20名 9月 2日 『眼の合併症について』 講師：眼科医師 医長 / 鈴木 俊一 参加者 15名 ● 健康教室 8月21日 『乳がんについて学ぼう』 講師：乳腺内分泌外科 医師 / 児玉 ひとみ 参加者 30名
川崎クリニック	● 院内勉強会 7月 6日 『介護保険勉強会』 参加者 24名 7月20日 『かゆみ勉強会』 参加者 25名 8月 4日 『透析患者の移動、介助の仕方』 参加者 14名 8月31日 『新人指導の仕方』 参加者 23名 9月21日 『急変時対応の仕方』 参加者 17名
さいわい鹿島田 クリニック	● 7月15日 腎性貧血治療薬『エポエチンアルファBS注JCR』について 講師：キッセイ薬品 ● 7月16日 ダイアライザー『FX-Sシリーズ（V型）』について 講師：フレゼニウス株式会社 ● 8月27日より 毎週火曜日午前 野田 泰照 医師 泌尿器科 開始
さやま腎クリニック	● 防災訓練 9月3日 地震を想定 参加者31名（職員のみ） ● 院内勉強会 9月8日 『エポエチンアルファBS注勉強会』 講師：キッセイ薬品工業株式会社 参加者 25名
昭島腎クリニック	● 院内勉強会 7月15日 救急蘇生法 講師：日本光電インストラクター 参加者 32名 8月12日 テレビファールム『透析患者の血圧管理』 講師：中外製薬 参加者 30名
アルファメディック・クリニック	● 院内勉強会 9月9日・16日・30日 『腹部超音波検査実技指導』 参加者 6名 講師：新赤坂クリニック 超音波検査 検査室 室長（日本超音波検査学会評議員） / 谷田部 真由美

川崎健診クリニック	● 7月27日・28日 検体検査実務者研修会 参加者 1名 ● 9月 2日 労働衛生サービス機能評価認定実務責任者講習会 参加者 2名 ● 9月19日 アスリード株式会社 エコー検査実技実習スクール 参加者 1名
新緑会脳神経外科	● 9月16日 第3回訪問リハビリテーション地域対象勉強会 『訪問リハの効果』 講師：新緑脳神経外 訪問リハビリテーション科 作業療法士 / 柴崎 千種 参加者 50名
立川新緑クリニック	● 9月18日 『ホームヘルパー2級課程養成セミナー』 別館にて開催 主催：包括支援センターわかば
立川介護老人保健施設 わかば	● 勉強会【施設内】 7月28日 認知症対応の基本を学ぼう 参加者 36名 9月22日 老人保健施設リスクマネージメント『施設事故の過失責任』 参加者 25名 9月28日 老健大会演題発表予演会『職員配置の工夫等による転倒事故防止』 参加者 17名 ● 行事【施設内】 7月31日 わかば納涼祭 参加者 入所・通所利用者、及び家族、近隣住民、職員 9月19日 敬老会 参加者 療養棟、通所利用者
立川市北東部わかば 地域包括支援センター	● 地域活動 7月9日、8月5日、9月6日・10日 『男の料理教室』 幸学習館、若葉会館 参加者 延 79名 7月1日、8月2日、9月6日 『三者懇談会（老人会・民生委員・地域包括センター）』 南部自治会館 参加者 延 64名 7月31日 若葉町地区移動問題を考える会（於 若葉会館） 参加者16名 8月 5日 『五者懇談会（若葉町団地自治会、UR 機構管理組合、民生委員、地域福祉コーディネーター、地域包括支援センター）』 若葉町団地集会所 参加者 16名 8月 6日 『リハビリテーション病院との連携～武蔵村山病院 石神先生・竹口病院 越坂部先生を呼んで』 老健わかば 参加者 34名 9月30日 『男性介護者たちが、物申す～男性介護者のつどい』 幸学習館 参加者 30名 7月 1日 地域（若葉町・栄町）情報誌（まちなつと）発行 若葉町・栄町の約1,200世帯に配布 ● 9月18日～11月20日 わかば2級課程養成セミナー開講 受講生 19名 受講修了者は、ホームヘルパー2級、障害者（児）居宅介護従事者2級資格取得となります
特別養護老人ホーム オリーブ	● 7月12日～14日 狭山市立山王中学校2年 体験学習3days受入 5名 ● 7月27日～29日 狭山市立堀兼中学校2年 体験学習3days受入 6名 ● 8月 8日 オリーブ納涼祭 参加者 140名 ● 8月16日～20日 武蔵野音楽大学 教員免許取得のための実習 受入 1名 ● 8月22日 入居者109歳祝いのため市長訪問 参加者 20名 ● 9月 6日～10月9日 埼玉福祉専門学校 社会福祉実習 受入 2名 ● 9月 7日 歌と大正琴合奏会 美咲会 演者3名 参加者 63名 ● 9月12日 オリーブ敬老会 尺八・三味線の演奏と民謡 参加者 60名 ● 9月17日 幼稚園児との交流 あおば幼稚園 園児受入 30名
狭山市入間川・入間川 東地域包括支援センター	● 地域活動 7月5日・6日、8月2日・6日、9月6日 入間川地区民生委員、入間川東地区民生委員との定例情報交換会 狭山市社会福祉会館 参加者延120名 7月14日・21日 『介護予防教室』 鵜の木第一自治会館 参加者延 31名 9月28日 『入間川東地区第1ブロック食事会』 老人福祉センター不老荘 参加者 47名 ● 9月17日 『介護予防イベント』 鵜の木第一自治会館 参加者18名 ● 9月16日 平成22年度 第2回『日常生活圏域会議』 地域ケアセンター会議室 参加者19名